

- 自ら考え、表現できる人（創造）
- 仲間とともに高め合える人（共生）
- 心身ともにたくましい人（健康）

学び合いながら、心を一つにダンスを仕上げる

本年度のしめくりにふさわしい校内授業研究会になりました



本年度は、教員を5つのグループに分けて全員が授業を同僚に見てもらうグループ授業参観を2回、全教員参加の授業研究会を4回行いました。

1月20日（金）、3年1、2組の保健体育「創作ダンス」を題材に第4回授業研究会（授業者 柏村夕里教諭）は、本年度のしめくりにふさわしい成果の大きい授業研究会となりました。

柏村教諭は、「『クラスで協力して、卒業作品を制作しよう』という課題のもとで、3年間の積み重ねを大事にして計

画的に指導を重ね、ダンス学習の集大成として生徒に大きな達成感を味わわせたかった。」と言っていました。その言葉のとおり、素晴らしい出来栄のダンスであると同時に、練習・発表の間にも手振り・身振りをしながら修正点を確認するなど、一人一人に「深い学び」が成立していました。



今回は、教師全員がカメラを持って生徒の姿を撮影し、その後の研究会で写真やVTRを使いながら一人一人の学びの深さについて話し合いを



行いました。そこから学んだことを次のように整理しました。

○技術の向上は意欲や学びの深さに比例する。

1年生の時から基本となるステップや動きをしっかり習得させてきたからこそ素晴らしい生徒の姿が実現している。

○どの生徒も自分を出して精一杯取り組んでいるから向上する。

自分を出して精一杯取り組んでいる（「自己発揮」している）とき、得意不得意に関係なく、どの生徒も向上する。

○周りの生徒の動きを感じながら演技し、演技後も言葉でつながる。

「対話」は言葉だけではない。五感で一体感を味わう経験が、チームとしての改善点、個人としての改善点を考える学びを支えている。したがって、上手な生徒に引き上げられて上手になり、上手な生徒はさらに上手になっている。

○教師は、一方的に教える人ではなく、生徒同士の課題解決を支える人であることに重点を置く。

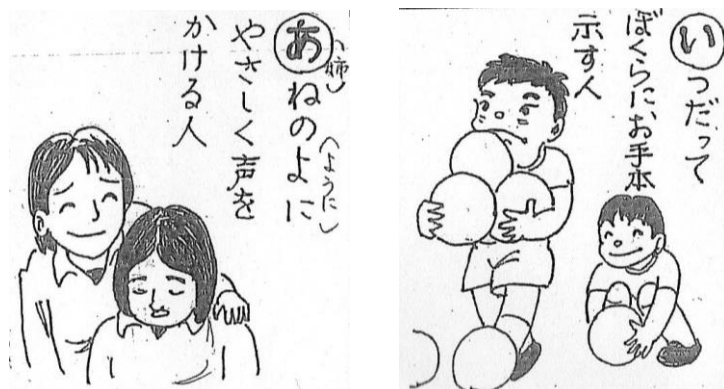
身体的にも情意（じょうい）的にも、教師と生徒が向かい合う関係ではなく、同じ方向を向いている場面が多々あった。生徒同士が互いの考えを伝え合うのを援助し、必要があれば改善点に気づくよう生徒の目線で提案していた。今後、重視されるべき教師の役割である。

○発表の場が設定されていたことで、効力感や自己肯定感が高められた。

発表に向けて主体的に取り組み、協同でより高次のパフォーマンスを作り上げたので、効力感や自己肯定感が高まった。今後発表の対象を下の学年に設定するなど、発表の機会を拡大することで相乗効果も期待できる。このように私たち教員も互いの実践に学び合って、次年度のよりよい授業につなげていきます。

具体的な先輩像を思い描こう

次の2つの絵は、私の作った「憧れの先輩カルタ」です。今、1、2年生とも、次年度に向けて先輩の自覚を持つように指導しています。それを「見える化」するために、美術部員にカルタの募集をしているところです。



これは、2年生の永瀬愛さんの作品です。よいものが出来上がったら、引き続き紹介します。



合格者に望む、受験者への心配りと前進の気構え

私立高校の受験に向けて53名、県立高校の受験に向けて42名、重複(ちょうふく)があるので延べ95名の面接の練習を行いました。中には、「もう1回お願いします」と進んで面接練習を行った生徒もいますので、実際の回数はもう少し多くなります。昨年度に引き続き須賀川三小の麻生能孝(あそう・よしたか)校長先生に指導に加わっていただいています。さらに今年度は、水沼栄寿(えいじゅ)教頭と元担任・池田和紀(かずのり)先生にも参加いただきました。これによって義務教育修了時に子どもたちがどのように試験に立ち向かっているかについて、より理解を深め合えるものと考えています。



さて、本日現在で私立高校39名、国立高専2名の合格が決まり、県立高校I期試験も31名の合格が内定しました。私は、これからが教育の真価が問われる大事な時期だと気を引き締(し)めています。ともすれば、合格したからといって安心して学習に身が入らない、生活に緊張感がない、これから受験が控(ひか)えているのに合格者と一緒(いっしょ)にいて焦(あせ)りの気持ちが大きくなる、イライラするといったような生徒が現(あら)われないとも限(かぎ)らないからです。そこで、特に合格者、合格内定者には、次の点に心がけて生活できるよう、保護者の皆様のご協力を願(ねが)います。

◇入学式まで学習面の弱点補強をしたり、級友の疑問点を丁寧(ていねい)に教えたりして、学力向上に努(こ)めよう。高校から出された課題はやりっぱなしではなく、「わかる・できる」ようになるまで取り組もう。

◇高校(専門学校)入学後の生活を先取りして、家庭生活を送ろう。起床(きしやう)時間、朝夕の食事の時間、学習の時間、入浴・就寝(しゅうしん)時間をスケジュールに位置付けて習慣化しよう。

◇今までできなかった分まで読書をしよう。高校生になっても継続できるよう読書の習慣をつけよう。また、新聞なども読むようにしよう。

◇将来の夢や目標、志願理由をもとに、何歳の時にどういう選択をして、何歳では何をして……というような将来の計画(未来予想図)を描いてみよう。

◇協力してくれる方がいる場合は、自分のなりたい職業の人の話を聞いたり、職場体験をさせてもらったりして、自分の職業観や勤労観を再確認しておこう。

何よりも、これから受験を控えている級友への心配りができる生徒であってほしいと思います。